

刺激応答ニューロンの局在。第9回日本神経科学学会集會, 1985, 12, 東京。

40) 柴田良子, 小野武年, 村本健一郎, 福田正治, 中村清実: 自由行動下ラット視床下部腹内側核ニューロンの発火様式。第9回日本神経科学学会集會, 1985, 12, 東京。

41) 清原壽一, 堀 哲郎, 大村 裕, 西野仁雄, 栗生修司, 藤田一郎: サル視床下部温度ニューロンの情動刺激応答。第9回日本神経科学学会集會, 1985, 12, 東京。

生 化 学 (1)

教 授 平 賀 紘 一
助 教 授 山 本 雅 之
助 手 相 原 康 之
技 官 恒 田 則 子

◆ 原 著

1) Hiraga K. and Tuboi S.: Comparison of Populations of mRNA Coding Fumarase in Rat Brain and Liver. *Biochem. Intern.* **10**: 681—687, 1985.

2) Yamamoto M., Yew N., Federspiel M., Dodgson J. B., Hayashi N. and Engel J. D.: Isolation of Recombinant cDNA Encoding Chicken Erythroid δ -Aminolevulinic Synthase. *Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A.*, **82**: 3702—3706, 1985.

3) 石山秀一, 塚本 長, 平賀紘一: ラット肝ミトコンドリアの酸化的磷酸化反応に対する *E. coli* endotoxin の阻害機構。日本外科学会雑誌 **86**: 23—31, 1985.

◆ 学会報告

1) 鈴木民夫, 平賀紘一, 坪井昭三: ラット肝グリシン開裂系の H-蛋白の構造。第51回日本生化学会東北支部会, 1985, 4, 仙台。

2) 井上 巖, 平賀紘一, 坪井昭三: パン酵母ミトコンドリア型および細胞質型フマラーゼの合成調節。第58回日本生化学会大会, 1985, 9, 仙台。

3) 瀬尾伸夫, 平賀紘一, 坪井昭三: ラット脳タンパク質 O-メチル化反応のメチル受容体蛋白の性質。第58回日本生化学会大会, 1985, 9, 仙台。

生 化 学 (2)

教 授 藤 岡 基 二
助 教 授 小 川 宏 文
助 手 五 味 知 治
助 手 古 西 清 司
文部技官 高 田 義 美

◆ 原 著

1) Fujioka M. and Gomi T.: Inactivation of S-adenosylhomocysteinase by nucleosides. *Sulfur Amino Acids* **7**: 411—419, 1984.

2) Gomi T., Ishiguro Y. and Fujioka M.: S-Adenosylhomocysteinase from rat liver. Evidence for structurally identical and catalytically equivalent subunits. *J. Biol. Chem.* **260**: 2789—2793, 1985.

3) Takata Y., Gomi T. and Fujioka M.: Chemical modification of S-adenosylhomocysteinase by a water-soluble carbodiimide. *Arch. Biochem. Biophys.* **240**: 827—835, 1985.

4) Hata A., Kirino Y., Matsuura K., Itoh S., Hiyama T., Konishi K., Kita K. and Anraku Y.: Assignment of ESR signals of *Escherichia coli* terminal oxidase complexes. *Biochim. Biophys. Acta* **810**: 62—72, 1985.

◆ 学会報告

1) 五味知治, 石黒義久, 藤岡基二: S-アデノシルホモシステイナーゼのサブユニット構造。第3回日本生化学会北陸支部大会, 1985, 5, 金沢。

2) Fujioka M., Gomi T. and Takata Y.: Functional amino acid residues at the active site of rat liver S-adenosylhomocysteinase. The Biochemistry of S-Adenosylmethionine As a Basis for Drug Design. An International Symposium 1985, 7, Bergen, Norway.

3) 増田 達, 五味知治, 藤岡基二: 逆相クロマトグラフィーによる S-アデノシルメチオニンおよびその関連物質の分離・定量。第8回含硫アミノ酸シンポジウム, 1985, 8, 滋賀。

4) 高田義美, 五味知治, 藤岡基二: ラット肝 S-adenosylhomocysteinase の必須カルボキシル基の化学修飾。第58回日本生化学会大会, 1985, 9, 仙台。

5) 藤岡基二, 石黒義久: ラット肝 glycine methyltransferase の 5'-(P-(fluorosulfonyl)benzoyl) adenosine による失活。第58回日本生化学会大会, 1985,

9, 仙台.

6) 五味知治, 高田義美, 藤岡基二: ラット肝 S-adenosylhomocysteinase の活性中心 SH 基, 第58回日本生化学大会, 1985, 9, 仙台.

病 理 学 (1)

教 授 北 川 正 信
助 教 授 三 輪 淳 夫
助 手 村 井 嘉 寛
助 手 増 田 信 二
助 手 松 井 一 裕

◆ 原 著 (第8輯記載洩れを含む)

1) 三笠桂一, 澤木政好, 堅田 均, 宮崎隆治, 成田亘啓, 三上理一郎, 東口隆一, 小西陽一, 北川正信: 両側の胸膜炎を伴い, 2年後左結核性膿胸をきたし呼吸不全で死亡した石綿肺の一部検例. 日胸疾会誌 22: 1154—1159, 1984.

2) 広瀬昭一郎, 平原克己, 青木周一, 中川彦人, 西邨啓吾, 堀三和夫, 北川正信: テガフル投与により原発巣および肝転移巣の消失した胃癌の1症例. 癌と化学療法 12: 957—959, 1985.

3) 石崎武志, 宮保 進, 岸田 繁, 北中 勇, 森永健市, 尾高和亮, 越野 健, 藤村政樹, 上田幹夫, 松田 保, 小林弘明, 渡辺洋宇, 北川正信: 低 γ グロブリン血症と細胞性免疫不全を合併した気管支・細気管支炎の1例—Common variable hypogammaglobulinemia とも考えられる1例—. 日胸疾会誌 23: 843—848, 1985.

4) 西条旨子, 百谷 泉, 寺西秀豊, 加須屋実, 北川正信: 兼業農家にみられた胸膜中皮腫の1例. 産業医学 27: 258—259, 1985.

5) Wakakuri, N., Kubo, T. and Kitagawa, M.: Hyperthyroidism after primary hypothyroidism Follow-up with serial thyroid biopsies. Arch. Intern. Med. 145: 1527—1528, 1985.

6) 本 敦文, 中田潤一, 岡 伸夫, 遠藤俊郎, 高久 晃, 北川正信: 頭蓋内腫瘍を認めた急性骨髄性白血病(AML)の1例. 脳外 13: 889—893, 1985.

7) 渡辺 剛, 渡辺洋宇, 清水淳三, 屋敷初郎, 岩 喬, 北川正信, 松原藤継, 藤村政樹: 気管に発生した Granular Cell Tumor の1治験例. 気管支 7: 307—311, 1985.

8) 宗本義則, 木元春生, 屋敷初郎, 渡辺洋宇, 岩 喬, 斎藤泰雄, 西嶋博司, 高島 力, 松原藤継,

北川正信: 肺癌と甲状腺癌の重複癌の一治験例. 北陸外会誌 4: 79—82, 1985.

9) 秋谷 徹, 中田瑛浩, 嘉川宗秀, 梅田慶一, 風間泰蔵, 笹川五十次, 片山 喬, 北川正信, 斎藤春雄, 太田幸吉, 千見寺勝, 松下徳良: 実験膀胱腫瘍に対する化学療法と高圧酸素の治療効果. 日高圧医誌 20: 245—250, 1985.

10) 長 澄人, 堅田 均, 塩谷直久, 東口隆一, 三上理一郎, 関 寿男, 籠谷勝己, 大山朝賢, 黒崎喜久, 北川正信, 北地一好: 孤立性薄壁空洞を呈した肺腺癌の1例. 肺癌 25: 1043—1048, 1985.

11) Iida H., Mizumura Y., Uraoka T., Takata M., Sugimoto T. and Miwa A.: Membranous glomerulonephritis associated with enterococcal endocarditis. Nephron 40: 88—90, 1985.

12) Yamagami T., Miwa A., Takasawa S., Yamamoto H. and Okamoto H.: Induction of rat pancreatic B-cell tumors by the combined administration of streptozotocin or alloxan and poly (ademosine diphosphate ribose) synthetase inhibitors. Cancer Res. 45: 1845—1849, 1985.

13) 阿部要一, 伊藤 博, 鈴木修一郎, 桐山誠一, 榊渕統一, 藤巻雅夫, 三輪淳夫: 下部胆管癌および乳頭部癌の臨床病理学的検討 —進展様式と予後について—. 胆と膵 6: 965—970, 1985.

14) 桐山誠一, 伊藤 博, 鈴木修一郎, 榊渕統一, 清水哲郎, 小田切治世, 麓 耕平, 藤田敏雄, 阿部要一, 藤巻雅夫, 三輪淳夫: 非浸潤性で乳頭状発育を示した肝内胆管癌の1例. 胆と膵 6: 1573—1577, 1985.

◆ 学会報告

1) 北川正信, 三輪淳夫, 村井嘉寛: 発生肺癌と石綿曝露との関連性に関する病理学的評価の試み. 第74回日本病理学会総会, 1985, 4, 東京.

2) 井上雄吉, 福原信義, 吉村菜穂子, 三輪淳夫, 中島 茂, 杉田秀夫: Cytoplasmic body myopathy の組織学的・電顕学的研究. 第26回日本神経病理学会総会, 1985, 5, 岡山.

3) 三輪淳夫, 北川正信: Eccrine gland由来と考えられた汗腺癌. 日本病院病理医協会中部支部第15回標本交見会, 1985, 6, 名古屋.

4) 村井嘉寛, 北川正信, 三輪淳夫: 石綿関連肺癌の病理学的特徴. 第26回日本肺癌学会総会, 1985, 10, 仙台.

5) 三輪淳夫, 増田信二: 胆嚢非浸潤癌10例の病理組織学的検討. 第27回日本消化器病学会大会, 1985, 11, 松山.